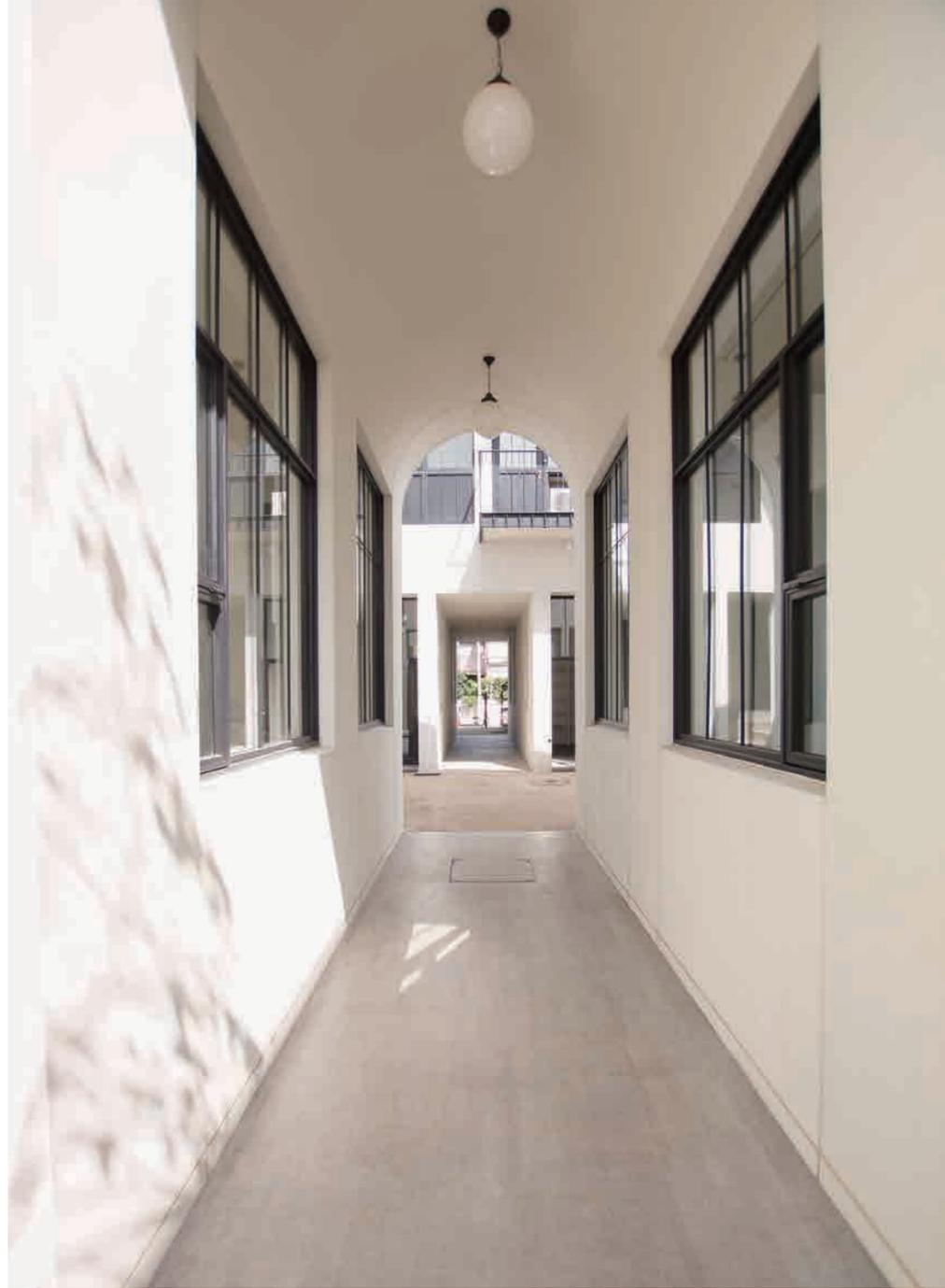


芸術家たちの夢の跡から始まった 100年後まで紡がれる物語

建物を南北に貫くアーチ天井の通路は、教会の回廊を彷彿とさせる。通路に面した住戸の幅広い窓枠に、洋書や木製のオブジェが飾られていた



シンメトリカルに佇む外観。緩やかにアールを描く壁面は、職人の手仕事による漆喰塗り。アイアン製の門扉との調和も見事だ。中庭に彩りを添えているのは、シンボルツリーの「ハンカチの木」。どの角度から見ても綺麗に見えるように植えられている



木製の郵便受けは、昔イギリスでオフィスのレターボックスとして使用されていたものを再生した。中庭に面した扉は、100年前のヨーロッパ製



トイレは海外ホテルのようなクラシカルなフォルムをあえて採用。洗練された室内は収納も充実。ロフトも備わっており、奥の階段は水まわりにつながる



館銘板は解体された米軍ハウスの外壁を再生。玄関の真鍮製の鍵はデッドストック商品を取り寄せた



DATA

- 物件名 / アパルトマンモンパルナス
- 所在地 / 東京都豊島区
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート2階建
- 戸数 / 26戸
- 建築年 / 2016年9月
- 設計・監理 / 岡由雨子建築デザイン(株)
- 施工 / (株)松下産業

か つて、豊島区西部に「池袋モンパルナス」と呼ばれた、若くて夢に溢れた芸術家たちが集まっていた一角があった。このアトリエ村の存在を知った時、建て替えを構想中だったオーナーのMさんは衝撃を受けたという。

「これだ！ぜひこの物語をモチーフにしたい。地域文化に貢献することができ、入居者から長く愛される価値を持つ建物こそ私が望んでいたものだ」

アイディアを膨らますために海外へ足を運んだり、建築家とイメージを共有する打ち合わせを何度も行い、完成した「アパルトマンモンパルナス」は2階建ての全26戸。うち5戸にはアトリエを併設している。古き良きものに愛着を持つMさんのご意向で、古さを感じさせる古材をあえて使っているが、それらが違和感なく建物に溶け込んでいく。そうした物件のコンセプトに共感した入居者が集まっているようで、中には内見時に感激して泣きだしてしまった方もいるのだとか。いかに望まれるべくして誕生した建物であるかが分かる。アパルトマンモンパルナスは100年後も住人に愛されているに違いない。